

Y's Men International

YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members

YMI ワールド
2021-2022 No.1
日本語版



内容：基調講演：隣人性、相互性、相補性の実践 / 活動ニュース：国際会長としての活動を開始 / アラン・"ウォリー"・ウォリントン、バランタイン賞を受賞 / リーダーシップについて：国際機関における効果的なリーダーシップ / 振り返り：今日の課題を最大限に活用する / マイクロ・ヒストリー：ワイズメンズクラブ国際協会国際議会 歴史的視点から〔パート3〕 / 声にして考える：次はどうなる？ / 環境問題：気候変動の影響はますます大きくなっている・気候変動・いくつかの課題 / ワイズメネット：ウクライナでのプロジェクトが成功裏に終了 / 地域からのニュース：オーストラリア、アメリカ、ブラジル、ブルンジ（アフリカ）、インド / 魂の真言：不正の壁を少しずつ打ち崩す

編集長のページ

読者の皆さまへ



いの行事を開始しました。

しかし、この1年半の間、私たちは、皆、宙ぶらりんの状態にありました。パンデミックの再来があるのか、ないのか、わからない状態でした。私たちは、脆弱性を感じていましたが、それでも地域社会と関わり、必要に応じて支援することを止めませんでした。パンデミックが去ったかどうかはわかりませんが、私たちは今、「新しい日常」に適応してきているようです。

今号では、以下の方の基調講演をご紹介します。新たに設立された中央トラバンコール区(インド)の発足式で、テオドシウス・マルトーマ・メトロポリタン司教が行った基調講演を紹介します。司教は、こう締めくくっています。「この危機は、終わりではありません。この危機を生き抜くことによって、新たな生活、新たな信仰の表現、主張が発見されます。あらゆる種類の排除や他人化を否定する隣人性、相互性、相補性の実践は、この中に含まれています。」イエス・キリストの倫理的な教えに基づいた組織として、これは、私たちが新世紀に向けて活動する際の政治、民族、ナショナリズム、人種、宗教、ジェンダー、カーストなどの区分によって引き裂かれた社会の中で、適切な存在であり続けるための明確な呼びかけでなければなりません。

私たちの生活にも影響が出始めている気候変動も重要な問題です。9月18日に行われたクリーンアップキャンペーンに見られるように、個人の小さな行動にも希望があります。たった一日の活動ですが、報告によると昨年は166カ国で1,100万人以上が参加したと言われています。今年は、世界180カ国でボランティア

もうすぐですね。私たちは、ワイズ運動の歴史的に重要な年の入り口に立っています。そして世界のいくつかの地域では、すでにお祝いが始まっています。表紙は、今年の5月に開催された北大西洋区大会の様子です。1年間の100周年プロジェクトのための大規模な寄附金活動を含むお祝

アは、2,000万人を超えると予想されています。

心強いのは、これは、2008年に北欧の小さな国、エストニアでの小さな取り組みから始まったことです。5万人以上の人々が協力して、たった5時間で国中を清掃しました。その日を境に、世界的なボトムアップ型の市民運動が生まれ、世界中に燎原の火のように広がっていきました。今年、YMIもその市民運動の一部となりました。歓迎すべきことだと思います。

記事をお楽しみください。

安全で、健康でいてください。

ワイズリー

コシー・マシュー

私の本棚から



バラク・オバマ著「約束の地」

バラク・オバマは、大統領としての回顧録の待望の第一弾として、若き日の彼のありえない冒険を語っています。自分のアイデンティティを模索していた青年が、自由な世界のリーダーになるまでの政治教育と歴史的な大統領の第一期の画期的な瞬間を劇的な変化と混乱の時代として描写しています。

オバマ氏は、読者を彼の初期の政治的願望から、アフリカ系アメリカ人として初めて第44代大統領に選出され、米国の最高権力の座を手中に収めた重要な分岐点となる2008年11月4日の夜の草の根運動の力を示したアイオワ州の党員集会での勝利までの旅に案内します。

「約束の地」は、非常に親密で内省的な作品で、一人の男の歴史に対する賭けと世界の舞台で試されたコミュニティ・オーガナイザーの信念の物語です。オバマ氏は、黒人として立候補し、「希望と変革」というメッセージに沸く世代の期待を背負いながら、バランスを取ることにについて率直に語っています。そして、リスクの高い意思決定における道徳的な課題に対応することを率直に語っています。彼は、国内外で彼に敵対した勢力について率直に語り、ホワイトハウスでの生活が妻や娘たちにどのような影響を与えたかを率直に語り、臆することなく、自信喪失と失望を明らかにしました。しかし、彼は、決して揺らぐことはありません。彼は、現在進行形の偉大なアメリカの実験の中では、常に進歩が可能であるという信念を崩しません。この美しく力強い本には、民主主義は、天からの贈り物ではなく、共感と共通理解の上に築かれ、一日一日を共に過ごしていくものであるというバラク・オバマの信念を表しています。

(Goodreadsのレビュー)

表紙: YMI の 100 周年を記念して、北大西洋区(米国) がプロジェクトを開始しました。(13 ページ参照)。インド地域のマドラス部の取り組みも、15 ページに報告されています。

YMIワールド

ワイズメンズクラブ国際協会

国際本部: Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長: コシー・マシュー

日本語版翻訳グループ: 田尻忠邦(委員長・大阪)、田中博之(東京多摩みなみ)、青木一芳(千葉)、朝倉正昭(東京世田谷)、今城高之(横浜つづき)、生川美樹(川越)、利根川恵子(川越)、花輪宗命(東京八王子)、比奈地康晴(東京)、倉田正昭(京都)、谷川寛(大阪センテナリアル)、谷本秀康(広島)、中井信一(奈良)、前田香代子(熊本ジェーンズ)

印刷: (株)三浦印刷所 三浦克文(岡山)

隣人性、相互性、補完性を実践する相補性

テオドシウス・マル・トーマ・メトロポリタン博士

ワイズメンズクラブ国際協会のメンバーの皆さま、そして親愛なる友人の皆さま、この中央トラバンコール区の設立記念行事と初代区理事の就任式にご参加された皆さまにご挨拶申し上げます。

すべての友人とマランカラ・マル・トーマ教会を代表して、私はジョージ・ダニエルを祝福し、すべての人と区すべての活動に神の祝福があることを祈ります。

新型コロナウイルスの第2波は、国内にパンパニックを引き起こしました。パンパニックとは、比較的新しい言葉で、パンデミックによる強い恐怖感から、合理的な思考や行動ができなくなることを意味します。現在、我が国では、大量の火葬やパンデミックによる死者が続出しています。国民だけではなく、「システム」全体がパンパニック状態になっていると言っても過言ではないでしょう。

新型コロナウイルスは、人類の苦境の物語全体を書き換えました。新しい現実、つまり新しい日常の現実を切り開いたのです。このパンデミックは、人類全体に影響を与え、巨大な苦しみをもたらしました。大規模に人命が失われ、社会生活の均衡が脅かされました。経済的、社会的にもパンデミックの影響は、壊滅的です。多くの人々の生活を脅かしました。仕事を失い、その結果として経済的困窮は、私たちの生活に大混乱をもたらしています。今回のパンデミック、それに対する私たちの対応、そしてそれがもたらした変化は、この地球の歴史的記憶の中で最も強烈なもののひとつになるでしょう。

平等な空間づくりへの挑戦

社会学的、心理学的、経済学的な側面と並んで、信仰の観点から新型コロナウイルスの問題に取り組むことは、困難なことです。神学とは、神の性質を理解することです。それは、私たちが神や世界をどのように見て、どのように対応するかに影響します。今日、私たちが直面している課題は、信仰共同体や組織には、正しい神学を形成し、その神学に基づいて、最終的には証しにつながる強い信仰を形成するための絶好の機会となっています。

旧約聖書の神学者であるウォルター・ブルエッグマンは、現在の危機は、隣人愛のビジョンを再構築する機会であると主張しています。この機会に私たちは、一体感の新しいビジョンを活性化する勇気と想像力を持つことができます。この新しい状況と新しい日常の要求は、私たちが組織的に自己主張することを支えています。この状況に立ち向かうための集団的な社会的意志を促進するために、組織的な自己主張が必要です。物理的な距離を置くこと、マスクをするこ



と、そして消毒する行為が、コミュニティー生活の新しい規範となると、この新しさの中で、平等な空間を作り出すことが課題です。

私たちは、神の創造的かつ救済的な行為に従事するという困難な課題を抱えています。呼びかけは、次のようなことを明らかにすることです。そして私たちは、イエスの生涯と働きに見られる新しい隣人意識と一体感を表現するように求められています。これは、私たちに新しい一体感の概念を思い描くことを求めています。私たちの目の前にある課題は、ご自身を無にし、十字架にかけられ、切り刻まれ、復活し、新しい共同体を作るために昇天された神と向き合うことです。

希望、それは唯一の鎧

世界が、恐怖に震えているパンデミックの時代に、ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)は、希望の光となることを求められています。希望は、人々の恐怖、自暴自棄、絶望に立ち向かうためのYMIの唯一の盾です。このパンデミックの間、YMIは、神の聖なる国であり、壊れて悲嘆にくれた世界で神の使命を遂行するために際立てられています。次のような行動に基づいて、異なるライフスタイルを持つように呼びかけられています。

1.YMIは、このパンデミックに直面して、異なる考え方やライフスタイルを持つよう、地域社会をリードしなければなりません。

2. 新型コロナウイルスは、YMIにとって、イエスの癒しの牧会を、特別な方法で実践する機会です。医療ケアを提供するコミュニティーが癒しの物理的な側面を扱うのに忙しくしているとき、YMIは、人々の様々なニーズに応えるために、特に感情的、心理的、精神的な癒しと励ましを求められます。

3. 肉体的な苦しみに加えて、このパンデミックでは多くの副産物が生じています。孤立、不確実なロックダウン、経済的苦痛、失業、移民労働者に対する無関心、医療資源の不足、などなど。このような状況では、YMIは、主が示されたのと同じ思いやりを持って対応しなければなりません。

12ページに続く

これは、世界的なマル・トーマ・フェローシップの代表であるテオドシウス・マル・トーマ・メトロポリタン博士が、2021年6月28日にYMIの中央トラバンコール区の発足式開催時に行った基調講演の抄録版です。

キム・サンチェが国際会長としての活動を開始

国際執行役員と国際議会メンバーの就任式が7月3日に、「ハイブリッド」形式で、韓国、キメのキメ西洋文化センターで行われました。直接会場に参加した人々の他に、YouTubeとFacebookによる実況中継も実施されました。



キム国際会長就任受諾後、国際会長襟章を付けるムン・サンボン元国際会長



就任受諾演説を行うキム・サンチェ国際会長



韓国キメのキメ西洋文化センターで行われた就任式の参加者

アラン “ウォリー” ウォリントンが名誉あるバレンタイン賞を受賞



Alan Wallington

ハリー・M・バレンタイン賞は、「ワイズメンに授けられる最高に名誉ある賞」です。

この賞は、特にこの運動に功績の有る友人-「YMIに対して長期に亘って特別に価値有る奉仕と支援を行った」個人-に対して適宜授けられているものです。

この年の受賞者は、「ウォリー」としてよく知られている、中央南ヨーロッパ区のキングスウッドワイズメンクラブ所属のアラン・ウォリントンです。彼の私たちの運動に対する貢献は、特別なものであり、決して止まることはなく、年と共に増えています。この30年近くに亘って、私たちは、ウォリーから、YMIクラブの会員であることが何であるかを教えられています。

1978年にキングスウッドクラブに参加するやいなや、彼は直ちにクラブ活動に身を投じ、その当初から途方もない関与

と情熱を注ぎました。ウォリーは、彼のクラブのほとんどの主要な役職を歴任しました。彼は、何度も会長職に就き、事務的な仕事が求められる時には常に喜んで奉仕しました。

彼は、長年、クラブのプリテン、“ヤングスター”(Youngster)の編集責任者でした。彼はまた、国際議員を含む多くの国際的役職を務めました。彼は、2年間の中央南ヨーロッパ区理事の務めを終えました。

ウォリーは、10年以上に亘って、私たちの国際機関誌、YMIワールドの編集長でした。現在は、国際会長ニュースの編集長として、人々が次号を楽しみにするほどの紙面の質を上げ、11の言語の翻訳版を発行する作業もうまく調整してくれました。また、マニュアル審査委員会メンバーとしての彼の過去4年に亘る働きは、YMIのエネルギーな人としての彼の力を示しています。

もし、誰かを、その全ての形における、YMIへの貢献を認めて賞に値する人物として認めるとしたら、それは、アラン・ウォリントンです。彼は、ワイズマンだけが、確実に積極的であるとの信条を示してくれたのです。

国際的な組織における効果的なリーダーシップ

ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィック

皆さんもきっと経験されたと思いますが、私のリーダーシップ哲学の本質は、私が苦勞して学んだものです。ベルリンの壁が崩壊したとき、東ヨーロッパが開かれ、ヨーロッパの旧共産圏が開かれました。そして豊かな国ノルウェー出身のルーテル派の牧師である私は、ローマ・カトリックのどちらかという貧しいポーランドに放り込まれ、その後チェコスロバキア（当時はそう呼ばれていました）、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、さらにアルメニア、ジョージア、ロシア、ウクライナに行きました。結局、YMCAの活動再建のために、20ヶ国以上のヨーロッパのYMCAで働くことになりました。その後、私は、ヨーロッパYMCA同盟の総主事となり、11年の任期を経て、会員数6,500万人、職員10万人、ボランティアリーダー70万人以上の世界YMCA同盟の総主事に任命されました。

誰も私の経歴、言語、教会、学歴、専門性に興味を示しませんでした。私は荷物を持たずにその新しい現実に入り、裸で、一人で、とても弱い自分に気がつきました。飛行機のタラップを降りてきた時、私が持っていた唯一のもの、それは自分の価値観という本当に大切なものでした。そしてそれをいつも私の心と頭の中に持っていました。リーダーシップについて祖国で学んだことは、私の新しい役職や国際的なレベルではほとんど重要ではありませんでした。

未知の世界へ

私の国際的なリーダーシップは、ポーランドから始まりました。1991年当時、何ヶ月もガイダンスを待たなければなりませんでした。誰も助けようとはしませんでした。そこで私は、東ヨーロッパという未知の世界に私を導いてくれるよう、彼らに助けを求めたのです。

そして、奇跡が起きました。私の無力さ、弱さ、脆弱さを通して、私の周りのドアが開いたのです。

私は、誰もが望む最高の友人を得ました。彼らのおかげで文化、歴史、そして彼らがそうである理由を理解することができました。信頼を深め、友情を深めていく過程で、彼らは、ついに私に簡単な質問をし始めました。その時、私は、小さな答えを出し、自分のバックグラウンドを共有することができました。圧倒的な強さや力ではなく、弱さと脆弱性をもって本当のリーダーシップのプロセスが始まったのです。

それは、実際に優しさではなく、寛大さ、寛大なリーダーであること、そして周りの寛大な人々に助けを求めることでした。それは、価値観に基づいたリーダーシップでした。

ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィック 世界YMCA同盟前総主事は、ノルウェーのトゥンズバークワイズメンズクラブのメンバーであり、ヨーロッパYMCA同盟へのリエゾンでもあります。これは、彼が2021年7月の国際会議で行ったスピーチの一部です。



リーダーシップへの新しいアプローチを形成する

その経験をもとに、私たちは「伴奏」というリーダーシップの概念を展開しました。このコンセプトは、強者と弱者の関係ではなく、先生と生徒の関係でもなく価値観の対等性です。そしてお互いに分かち合い、一方が他方を支配することなく手をつないで、並んで歩きながら行く道筋の一部を共有することを意味しています。

西欧社会から荷物を持たずに、共有すべき価値観だけを持って東ヨーロッパに入ることは素晴らしいことだったと気付きました。これは、まさにリーダーシップの魂の形であり、同時に最も効果的な形でもあるのです。それが真に国際的なレベルで機能する唯一のものであることを経験が示しています。

正しいことをするために

私は、多くの違ったタイプや形のリーダーシップを見てきました。そのほとんどが自己中心的で、パワーゲームや操られたものでした。それは、イエス・キリストからではなく、マキャベリと彼の有名な著書である『君主論』からインスピレーションを得たものでした。彼は、その中で、両方になれないのであれば、リーダーは愛されるよりも恐れられる方がよいと言っています。そして、彼のリーダーシップ哲学の本質は、「目的のために手段を選ばず」と広く表現されています。

それは、効果的なリーダーシップではありません。それは、本来墮落したものであり、いつも災難に終わります。他の文化の人々を尊重するのではなく、彼らを価値の低い劣った存在として見下してしまうのです。

歴史上のいくつかの例を見れば、この点を説明するのに十分でしょう。権威主義的なリーダーの独裁者達は、突拍子もなく金持ちになり、それから痛みと恥の中ですべてを失ってしまう傾向にあります。リビアのムアンマル・カダフィやイラクのサダム・フセインなどは最近の例です。どちらも不名誉と恥辱の中で潜伏し、そして処刑されました。スターリンは、誰からも助けられようとされず、寝室の床の上で2日間苦しみながら死にました。

私たちは、マキャベリズムに基づく腐敗したリーダーシップの例を数多く挙げるができます。ワイズやYMCAの中に、マキャベリズムに触発されたリーダーシップがあるでしょうか。確かにあります。そして、私たちは、それと戦う必要があります。なぜなら、それは、私たちの運動を衰退させ、真の成長と進歩を妨げ、私たちを後退させてしまうからです。だからこそ、私たちは、戦わなければならないのです。私のオフィスでは、何ひとつ安易な手段をとりませんでした。私たちは、すべての会費と税金を支払い、そして高価な解決策を選択しました。それは正しいこと故に、私たちは夜も眠ることができました。

振り返り

今日の課題を最大限に活用しよう

元国際会長 ジェニファー・ジョーンズ

18カ月前、世界が今も新型コロナウイルスのパンデミックがもたらした課題への対応に関わっているとだれが想像し得たでしょうか。私たちは、間違いなく不確実な時代に生きており、個人的に、あるいは奉仕団体として生き残るために新しい運営方法の採用が必要となっています。

オーストラリアで話題となっているメンタルヘルスの問題は、恐らく世界のそこかしこでも問題となっていることでしょう。オーストラリアでは新型コロナウイルスの感染者数を比較的低いレベルに抑えることに成功しているにもかかわらず、地域封鎖、夜間外出禁止、州境の封鎖などは地域社会に相当の犠牲を強いています。家族は、お互いに訪ねあうこともできないし、休暇でどこかへ行ったり、将来の活動計画を立てたりすることなどは大変難しくなっています。礼拝に参列している人々は、互いに離れて座り、マスクをして、賛美歌を歌うこともできません。スポーツの会場では入場者の削減や、全く無観客のスタジアムさえあります。

テクノロジーの救いの手

これはワイズメンズクラブ国際協会および各クラブ会員にとって如何なることを意味するのでしょうか。ありがたいことに、YMIのリーダーたちはじっと堪えて、過去1年半ばかりの間に普及したオンライン技術を採用してきました。これによりYMIは、その間の活動を維持することに成功しました。オンライン会議は、会議の合間に参加者が一緒にコーヒーを楽しんだり、強い絆と友情を育んだりできる対面の会議に置き換わることは決してありません。しかし、オンライン技術により、とりあえずギャップを埋めることが出来ました。

クラブでも対面会議の開催が不可能な場合にはオンライン会議が行われていたり、その他のクラブでは世界各地の国際兄弟クラブ(IBC)との会合を開いていたりしています。

キム サンチェ国際会長が国際的な「世界を癒そう」プロジェクトを今年立ち上げました。私たち全てがドクターズ・プログラムや様々な地域の再建に参加できるわけではありません。

しかし、クラブや地域コミュニティ活動で集うということは、より強固なコミュニティや社会を構築する努力をする価値のあるものと強調できます。よく言われることですが、活動的で、ある種のグループに所属する人は、他の人より長生きで、活動を通じて他グループのメンバーとの関係あるいはより広い世界で満足感を感じます。YMIのグループにおいて、私たちには「私たちよりもより大きな何か」に関わることが出来るチャンスがあります。

連帯の時

パンデミックは、人々に孤立していると感じさせますが、YMIの私たちは、それらの人々を腕で包み込み、彼らが人生における受容と目的を見つけるのを助けます。人と一緒にいると、自分自身の問題や心配事から解放され、特に、恵まれない人々に資金を提供するために国際的なプロジェクトであるタイム・オブ・ファストやロール・バック・マラリアで共に活動すると、しばしば視野が広がります。

人々はそれぞれ異なった理由でクラブに参加します。

*ある人は、間違いなく「ボランティア精神」をもって他の人の生活が異なったものとなることに幸せを感じます。

*ある人は、孤独で、落ち込んでおり、友情と受け入れられるところを探しています。

*他の人は、助けを必要とするコミュニティのギャップに気づき、手助けすることに熱心であり、問題解決に参加してくれる人たちのグループを探しています。

*ある人は、世界の他の地域と「国際的につながっている」という考えを好みます。

*ある人は、如何にしてリーダーとなるかを学ぶ機会としてクラブを開発の場とみています。

*恐らく、地理的に遠く離れた人たちと接触することなく、オンラインで会合できることが好みの人もいるかもしれません。

人々がクラブ会員となる理由は何であれ、その気持ちを最大限に生かすために現在と未来の両方の人々のニーズに合ったグループを作ることで、会員になってもらうことができます。この先の100年がYMIにとって興味深いものとなるようにしていきましょう。



ワイズメンズクラブ国際協会国際議会 歴史的視点から[パート 3]

元国際会長ベンソン・ワブレ、ケニア

これは、ベンソン・ワブレ元国際会長によって編纂された国際議会の歴史に関する 3 回シリーズの記事の最終回です。同氏が国際協会関連の書籍、マニュアル、方針、パンフレット、国際議会議事録を読んでまとめました。もともと、2017 年 6 月版「元国際会長ニュースレター」に掲載されたものです。(編集長)

お分かりのように、1972/1973 年度制定の新国際憲法は、今でも YMI の組織・機構が安泰であるような堅固な基盤を設置しました。別の重要な変更が、1982 年韓国ソウルで開催された国際大会で国際憲法が改正された時になされました。

この新しい改正は、YMI の組織や機構の改変ではありませんでした。国際議会 (IC) に関するものとしては、変更は、国際議員の選出手続きを微調整するもので、IC の議席は全部で 21 のまま各地域に 1 議席を与え、残りの議席は、各地域の会費納入会員の数に基づいて割り当てるといったものでした。

新たな問題の発生

2000 年代に入って間もなく、各地域の会員数に応じて議席数が定まるという IC の構成では、IC の会議で集団投票により、一つまたは二つの地域の利益を YMI 全体の利益に優先するような行為が目立つ、という問題が生じました。この不快な成り行きは、2004 年から 2006 年にかけての、YMI 国際本部をジュネーブから他所に移すとの議案を巡って論争にはずみをつけました。IC を再組織することが必要になりました。

2005 年に、YMI の当時の 8 地域全部から委員を出しての「勢力均衡委員会」という委員会が組織されました。その任務は、次のとおりでした。

「国際議員が現に有している会議の論拠・規則・手続き・方針をよく調べ、それら論拠・規則・手続き・方針について YMI の長期的利益に役立つであろう改良案を勧奨すること。国際議会において、民主主義的多数決による多数派の優位を尊重するだけでなく、少数派の権利や意見も擁護するような勢力均衡の方法について勧奨すること。会員数統計や国際選挙の投票で不正操作をするなど、ワイズメンズクラブ国際協会が国際憲法その他の規約で宣言している目的を踏み外すような行為を、厳に避けることを目指した勧告を提出すること。」

この委員会の活動は、YMI 国際本部の移転に関する賛否両極の論争の陰でうやむやにされてしまい、IC 組織

改編については、ほとんど何も達成されませんでした。

国際議会 (IC) の構造改革

IC の構造におけるもう一つの画期的事件は、2010 年当時の藤井寛敏国際会長が、IC の構造の再調査を主な任務とする国際議会構造タスクフォースを設置したことから起こりました。

このタスクフォースの勧告は、国際議会に受理され、その勧告を採り入れた国際憲法の改正案が 2012 年に全ワイズメンズクラブに提示されて、承認されました。その結果、国際議会の構成 (議員数) は 21 名から 2014/2015 年度以後は、15 名に縮減されました。

その国際議員 15 議席中の 2 議席は「青年会員」が占めることになりました。国際憲法第 4 条 (第 2 項) が次のとおり改正されたのです。

「国際議会は、15 人の議員で構成する。各地域は、この議会に代表として 1 人の議員を選出する。他の 2 議席は、ガイドライン 414 の順番方式で選出された、地域を異にする青年会員議員が占める。残りの議席は、地域の国際会費支払い済みの会員数が国際協会の全会員数のうちに占める割合に応じて、地域間に配分される。ただし、いかなる地域も、青年会員議員を除く 3 議席以上を占めることはできない。」

2013 年以降に選出された国際議員は、1 任期 2 年のみを務めるものとする。なお、青年会員議員として 1 任期 2 年の任務を終了した後に 40 歳の年齢に達し、しかもその議席から最低 5 年を経過した後であれば、更に 2 年任期の 1 期のみ議員に就任することができるものとする。」

国際議会は、ワイズメンズクラブ国際協会の最高の立法機関として存続し、今後も永く、国際協会の組織編成・方向づけ・運営方策について決定的な役割を果たしていくことでしょう。



声に出して考える

これからどうなっていくのだろうか
国際ヒストリアンのデビー・レドモンドが貴重な宝物の行方について考える

あなたは、ワイズメンにまつわる写真や特別な思い出について考えたことはありますか。チャーターの写真、クラブでの活動の写真、あるいは初めて参加した区、地域、あるいは国際大会の写真などです。クラブが活動をしなくなったり、写真の持ち主が引越したり、亡くなったりした場合、それらはどうなるのでしょうか。

家族は、そのような貴重な写真には興味がなく、家族関連の写真だけを残したいと思っている場合が多いでしょう。そのような写真は、しばしば失われ、復元されることはありません。これらの写真は、この組織のレガシー（遺産）を物語るものですが、共有されることはありませんでした。失われた写真や思い出は、私たちだけのレガシーではなく、家族のレガシーでもあります。そんなことが起きないようにしてください。誰かに写真をスキャンしてもらい、あなたが知っていることを書き留めて、私たちと共有してはいかがでしょうか。

悲しい現状

1922年以降、米国だけでも約1,300のクラブがチャーターされていることを知っていましたか。それらのクラブのほとんどは、そのクラブについて書かれた短い新聞記事でもない限り、何も記録が残っていません。残っているのはクラブ名と設立日だけです。これは、他の国でも同じ状況です。明らかに、そのクラブに所属していた人たちは、クラブで撮った写真やその他の宝物を持っていたが、何も共有されず、彼らがいなくなると、写真や宝物もなくなってしまうようです。



1917年 イギリスにて撮影された、エルマー・クロウ

その一例として、誰もがその名を知っているエルマー・クロウについてあげることが出来ます。彼の名前がついた賞があり、その賞の最初の賞金は、彼の未亡人であるマーシャ・クロウ（最初のクラブでは、ワイズメネットとしてもとても活躍していた）によって提供されました。エルマー・クロウの新聞写真を探すのに大変苦労しました。突然、エルマーのお孫さんが、ジュネーブのYMIにエルマー・クロウ賞についての質問状を送ってきました。彼は、自分の祖父母がワイズメンに関わっていたことや、なぜ

祖父の名前を冠した賞があるのか、何も知らなかったのです。私の方が彼の祖父母と彼らのワイズメンズクラブでの活動についてよく知っていることがわかりました。エルマーのお孫さんが、エルマー・クロウの写真を何枚か共有してくれました。それらの写真は、彼の名を冠した特別賞に添えられます。

私の町では、私のクラブがチャーターされた時期に6つのクラブがチャーターされました。さらに、もう少し古いクラブもいくつかありましたが、それらのクラブについての写真や情報は、ほとんど残っていません。クラブやクラブに所属していた人が亡くなると、写真を共有することができなくなってしまいます。そんなことにならないようにしてください。これらの宝物について、よく考えて、（たとえデジタルだけであっても）ワイズメンと共有してください。そうすれば、私たち全員がそれらの宝物を鑑賞することができます。

最近、私の区やカナダの何か所かの区で、いくつかの貴重な写真が共有されました。一つは1940年代の国際大会の写真、もう一つは、1929年の国際大会に参加したメンバーのいとこが撮った写真、そしてクラブ全体のチャーターや記念日を写したものがいくつかありました。しかし、そのような発見は、稀です。他のクラブやメンバーはどうなったのでしょうか。

後世に残す

何を残し、何を捨てるか迷っていませんか。あなたが亡くなった後、ワイズメンの宝物をどうすべきか、何か指示を残していますか。私の場合は、子供たちがどのアイテムをアーカイブやワイズメンヒストリアンに送るべきかを知っています。私は、クラブの思い出の品々を整理するのを手伝ったり、YMIにとって特別なアイテムを置く場所がなくなった人から宝物を回収するために、何度も車で出かけたりしています。近い将来、さらにいくつかの旅が予定されていますが、もし宝物を少なくともスキャンしてもらえるのであれば、それも素晴らしいことです。レガシーを失わないようにしましょう。私たちは、これらの宝物を大切にし、せめてデジタルで保存し、後世の人々が楽しめるようにしなければなりません。



1921年 エルマー・クロウと
マーシャ・クロウ

ますます拡大する気候変動の影響 アメリカの山火事、ヨーロッパ、中国の雨と洪水

この2ヶ月間にヨーロッパ、北米、中国で起きた異常な気候現象は、地球が気候変動の時期に入っていることを疑わせるものではありません。証拠が必要な時期はとうに過ぎ、今、私たちは、ますます大きくなる規模の気候変動の兆候を目の当たりにしています。

6月の世界の気温は、急上昇し、北米では記録的な暖かさとなり、世界全体では4番目の暖かさとなりました。ヨーロッパの一部やロシアの北極圏でも例年にない厳しい暑さに見舞われ、寒冷地の多い大陸に影響を与えました。しかし、暑い時期の後には、より悲惨な雨と洪水がやってきて、ヨーロッパの多くの地域、特にドイツ、ベルギー、オランダ、ルクセンブルグに壊滅的な被害をもたらしました。約200人が命を落とし、何千人もの人々が家を失い、多くの財産が破壊されました。



イメージ写真

雨でも火事でも、同じ現実を反映

一方では熱波や山火事、他方では雨や洪水など、相反する自然現象のように見えますが、これらは、気候変動という同じ現実を反映しています。現在、気象予報に対する懐疑的な見方が広まっていますが、それは、システムが変わったからではなく、今起きている変化を理解できないからです。天候やその他の自然現象の変化は、何十年も前から起きています。最初は気づかないうちに、そして小さなスケールで起きていました。しかし、それらは今、生活に多大な影響を与える大きな異常現象に成長しつつあります。

アメリカやヨーロッパで起きているのと同じ現象が、アジアやアフリカで起きたら、人命や財産の損失は何倍にもな

るでしょう。このことは、降雨パターンの変化、サイクロン、海面上昇などの異常な気候現象や異常な出来事がより頻繁に起こっていることからわかります。国中で大規模な治水計画を実施し、河川を整備してきた中国では、今年、記録的な大雨と壊滅的な洪水が発生しました。インドでも、ムンバイやグルダラムなど、各地で不規則な降雨と洪水が発生しています。

これらは毎年、そして毎日のように、私たちが気候変動対策に失敗していることを示しています。このような状況では、これまでの被害を回復させるか、少なくとも現在の状況を食い止めることができません。パリ協定の実施については、いまだに合意が得られていません。すべての政府、市民社会、すべての組織が一丸となって、日に日に悪化しているこの問題に取り組まなければなりません。コロナウイルスは、遅かれ早かれ消滅し、生活は、元通りになるでしょう。しかし、気候変動は、取り返しのつかない損失や損害をもたらし、生活が維持できなくなるかもしれません。



残念ながらイベントは、キャンセルされました。

2022年ワイズメンズクラブ国際協会国際大会および国際ユースコンボケーションは、キャンセルとなりました。

IC2022 ホスト・コミッティーは、2022年8月にハワイ・ホノルルで予定されていたワイズメンズクラブ国際協会国際大会および国際ユースコンボケーションを残念ながら中止することを発表しました。代替日はありません。

新型コロナウイルスパンデミックによる世界的な不確実性が続いているため、ホスト・コミッティーは、多様な YMI メンバーが包括的に参加できる世界レベルのイベントを、自信を持って企画・開催することができないと判断しました。2023年または2024年にハワイで開催される国際大会の代替案が提案され、検討されましたが、現時点では受け入れることができないと判断されました。

ホスト・コミッティーは、すべての参加者にとって忘れがたい経験となる IC2022 の計画のために、何ヶ月も、あるいは何年も働いてくれたすべてのボランティアの方々に感謝したいと思います。特に、米国エリアとハワイ区の皆さまには、このイベントを開催するために熱心にご尽力いただきました。

ワイズメンズクラブ国際協会の100周年記念行事は、100周年記念委員会の計画に沿って、様々な地域や区で行われ、2022年11月15日から17日には、台湾で国際的な100周年記念行事が開催されます。

この記事は、バンガロールの日報「デカン・ヘラルド」に2021年7月23日付の社説として掲載されたものです。編集者の許可を得て、ここに掲載しています。

気候変動 - いくつかの課題

コリン・ランビー、グリーン活動 / 環境・地域事業主任

誰もIPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change:気候変動に関する政府間パネル)の最新情報を避けて通ることはできないでしょう。IPCCは約5年ごとに主要な報告書を作成していますが、今回の報告書は、新型コロナウイルスの影響で例年よりも少し遅れています。



今回の報告書では、問題が発生していること、そしてその主な原因が人間にあることが、これまで以上に明確になっています。問題とは、気候変動または地球温暖化です。

その原因とは、人間が化石燃料を燃やしていることです。

今回の報告書では、温暖化の速度がこれまでの予測よりも速く、1.5℃の温暖化がより早く予想されることが示されています。1.5℃という大したことがないように思えますが、私が住んでいるところの冬は10℃くらい暖かくなってほしいと思っています。しかし、温暖化による問題は、すでに経験済みです。特に異常気象、火事、干ばつなどです。

オーストラリアは、石炭を使って発電しているため、その負担をはるかに上回る問題を抱えています。石炭は、温室効果ガスの主要な発生源のひとつであり、オーストラリアでは石炭を

燃やす発電所からの電力の割合が高いのです。天然ガスも、ガスを採掘する際のリークを考慮すると、あまり良くありません。幸いなことに、オーストラリアのすべての州と準州の政府は、電力を排出のない自然エネルギーに移行する計画を立て、実行しています。数年前から建物でのガス使用は、電気よりも割高になっていて、ガス業界のマーケティングに関係なく、建物のオール電化への移行が行われています。また運輸部門も、温室効果ガスの大きな原因となっています。しかし、オーストラリアは、他の多くの先進国に比べてかなり遅れていますが、小型車、大型車ともに電気自動車への移行が今後数年のうちに終わるでしょう。

オーストラリアは、化石燃料、特に石炭と天然ガスの主要な輸出国です。これらの産業に関わる企業と労働者は、それぞれ利益と賃金を得続けたいと考えています。他の国、例えばドイツでは、「誰も失業することなく」石炭からの脱却を実現していますが、そのためには政治指導者の勇気が必要でした。

私は、現在、ビクトリア州政府の資金援助を受けて、100kWの屋上ソーラーパネル設置プロジェクトを7件実施しています。これらのプロジェクトは、ベンディゴ・サステナビリティ・グループによってコーディネートされています。ベンディゴ・サステナビリティ・グループは現在、さらなる「コミュニティ再生可能エネルギー」プロジェクトのホスト候補を探しています。

クリーンアップは続く



今年の「ワールドクリーンアップデー」は2021年9月18日でした。今年初めにWeek4Wasteをコーディネートした国際事業主任・ウルリク・ローリドセンからの呼びかけにより、いくつかのクラブは、近隣の清掃活動に取り組みました。カメルーンのバメンダ・クラブ(上)は、その最初の1つでした。(印刷に回そうとしている今も、続々と報告が届いています。編集長)



エカテリンブルグのワイズメンは、9月18日(土・ワールドクリーンアップデー)に、チェルノソボの孤児院で庭の掃除や野菜の収穫を行いました。長い期間会えなかったのが、子供たちと直接会うことができ本当に良かったです。

ウクライナプロジェクトが成功裏に終了

国際ワイズメネットのプロジェクトコーディネーターであるジョーイ・マクナマラが、『ウクライナのザポリシア地区の社会的弱者である子どもたちの健康的な生活力向上のツールとして、運動や情操教育が重要である。』と、プロジェクトについて次の様な記事を書きました。

私たちは、子どもたちのための社会的・心理的リハビリテーション・ザポリシア地区センターの運動場に孤児や貧しい子どもたちのためにジム機器を備えた屋外運動場を作りました。また、私たちは、子どもたちが、健康的な生活習慣を学べるような講座を提供しました。ウクライナYMCAのビクター・セルブロフは、このプロジェクトのコーディネーターで、この春にウクラ



健康的な生活習慣を学んでいるところ



イナでは新型コロナウイルス感染は、悪化してきており、ウクライナ政府は、ザポリシアを含む多くの地域のロックダウンを宣言していると私に説明してくれました。この措置は、子どもたちへの幾つかの活動の延期を余儀なくさせられました。6月には徐々に状況は、改善して行き、ウクライナは、コロナからの安全地帯となり、私たちのプロジェクトを終了することができました。屋外運動場は、全面的に使用可能となり、子どもたちが健康的な生活習慣を修得するためのトレーニングが、実施されました。上の写真は、子どもたちが、私たちの提供した資料を使って講習を進めている様子を写しています。

2021年6月1日に世界児童保護の日を祝う式典が催されました。この日に屋外運動場の開場式も行われました。リハビリテーションセンターの子どもたちは、この施設とトレーニングの

完成を祝うコンサートに参加しました。

私が前にもお話した様に、貴方がワイズメンズクラブの国際メネットプロジェクトが有益であるか、あるいは、今までの状況を改善したか否かに、いささかのお疑いをお持ちなら、この写真に写っている子どもたちの幸せいっぱい顔を見ればよいのです。私は、これらの社会的弱者である子どもたちに与える事ができた幸せと教育の効果をもたらした国際メネットプロジェクトを支える苦勞が、完全に報われたと思います。

私たちのプロジェクトは、完了しました。私は、ウクライナYMCAのビクター・サーブロフに感謝の意を表したいと思います。ビクターは、プロジェクトの進行状況を逐一報告してくれ、私の仕事を大変容易に進めることが出来ました。皆さま、有難う御座います。



6月に開催された国際児童保護デーのコンサートの模様

地域からのニュース

オーストラリア:保健従事者用防護服(PPE キット)の不足を乗り越えて

イーグルホーク、ベンディゴ、カンガルーフラットの各クラブが、カンガルーフラット・クラブルームで集い、夜は、ゲスト・スピーカーを招いて食事を共にしました。

このプログラムの目的は、カンガルーフラットクラブが2020年にビクトリア州で初期段階の感染症が起こった時に携わった新型コロナウイルス関連事業の追跡調査でした。

保健従事者用防護服(PPE)の供給が需要に間に合わない時に、2人の地元のアイデア豊富な一般開業医が、不足を補うために医療用ガウンの製作に取り組みました。

ニコール・ロウ博士は、30代で医学の資格を取り、最初にファッションと衣服の製作を学んだ後に、約10年間IT技術の分野で経験を積みました。この興味深い経歴は、彼女に幅広いスキルを与え、リーダーとしての強力な主導と熱意により、素晴らしい生産プロセスが導入されました。

オーストラリア医師会や王立オーストラリア一般開業医大学などの医療機関へ最初の段階では援助が無かったために、彼らは、それを単独で行うことを決意しました。そのコミュニティは、数社の営利企業が取り組んだような大きな援助を行いませんでした。

大手の生地小売業者が素材を寄付し、メルボルンの衣料品会社はその生地を無料で裁断し、地元の運送会社が出来上がったガウンを州内に無料で配達しました。

昨年、ニコール・ロウ博士の卓越したリーダーシップにより提供されたプロジェクトで、何百もの医療用ガウンが、資金提供され、製造・配布されました。

ベンディゴクラブ・ブリテン2021年9月号記事より



縫製されたガウンの見本を持っているグラハム・ペンバートンとニコール・ロウ

基調講演(3ページの続き)

4.YMIは、1つや2つのプログラムを行うことに慰めを見出してはいけません。その代わり、戦時体制で臨まなければなりません。人間のニーズが特定されなければなりません。神の使命を果たすために具体的な計画を立て、資源を集め、そして計画を実行しなければなりません。

この危機は、終わりではありません。新たな人生、新たな信仰の表現や主張は、この危機を生き抜くことによって発見されます。あらゆる種類の排除と他者化を否定する隣人性、相互性、補完性の実践もこの中に含まれます。信仰は、私たちに力を与え、十字架につけられた神を模範とした人生を描くことを求めてきます。苦しむ者と共に旅をし、彼らの中に TENT を張る神への私たちの信仰を確認します。

今日、YMIは、心の奥底から応えなければなりません。もしそのメンバーが、ウイルスに感染した人々と同じ痛みを感じるのであれば、愛と恵みと希望をもって対応しなければなりません。これが今の時代に必要なことだと私は信じています。私たちは、行動に移しましょう。

私たち全員に神の祝福がありますように。

すべてのクラブに祝賀を呼びかけます

あなたのクラブをはじめ、世界中のすべてのクラブが、2022年5月1日から8日までの「祝賀の週」に、1つまたは複数の祝賀活動を行うことをお勧めします。

この小さな冊子は、クラブが友情と慈善の100年を祝うためのモチベーションを高めるための動機付けとなることを目的としています。

100周年ということで、クラブがどのように100周年を祝うか、100の提案を探してみました。100は見つかりませんでしたが、しかし、もしかしたらあなたやあなたのクラブが、私たちが見逃した提案を見つけられるかもしれません。もし見つかった場合は、ぜひFacebookページでそのアイデアをお知らせください。

冊子のダウンロードはこちらから:

<https://www.ysmen.org/centenary/our-100-years>



米国:北大西洋区(NAR)がフードバンクへの支援を強化

北大西洋区(NAR)は、2021年5月に迎える100周年を1年間かけて祝うために、ニューヨーク市の食料貧困をなくすために36年以上活動をしている非営利団体のニューヨーク市フードバンクに25,000食を寄付することを目的とした記念チャリティプロジェクトを開始しました。

ニューヨーク市フードバンクは、米国最大の飢餓救済組織ネットワークであるフィーディング・アメリカの認定メンバーです。

様々なクラブメンバーとその家族からの寛大な寄付により、短期間で必要な資金が集まただけでなく、想定していた目標額を1,000ドル上回ることができました。そのため、寄付金は25,000食(5,000米ドル)から30,000食(6,000米ドル)に増額されました。

ジョセフ・カンジャマラ



シャジュ・サム米国地域会長、ジョセフ・カンジャマラ直前区理事、コラソン・バルゲーゼ元国際事業主任(広報)およびエドウィン・カティ区書記から、6,000米ドルの小切手を受け取るニューヨーク市フードバンクの機関およびパートナーシップ担当副会長のジャニス・ロビンソン

インド、バンガロール:ビジャ・ジョティプロジェクト – スマホ等の機器を子どもたちに贈る



ビジャ・ジョティは、子供たちがオンライン学習に使うノートパソコンとスマートフォンを寄付するためにバンガロールII部が取り組んだ事業です。上の各写真は、バンガロール・ワイズメネットクラブのスピーシュ部長とシーラ・ディパクが、最初のノートパソコンとスマートフォンをそれぞれ必要としている学生に贈呈しているところです。

インド、ムンバイ:部族住宅イニシアチブ



ムンバイワイズメンズクラブは、ホームレスの人たちに、国際ロータリーが低価格の住宅を提供しているプロジェクト「アシヤナ」(Ashiyana)に参加して、70,000インド・ルピー(約1,000米ドル)の住宅ユニットを支援しました。

このユニットは、8月29日にクラブ会長のルイ・ロドリゲス(青いシャツ)が、ムンバイ市から約120キロ離れたワダの部族地帯に住む、住宅を必要としている家族に引き渡されました。

地域からのニュース

ブラジルにおける生活困窮者への支援

ブラジルは、世界の多くの国々と同様、新型コロナウイルスによる大変困難な状況に直面してきました。

しかし、困難な時にこそ私たちは、自分たちが本来持っている力を見出し、その可能性が見えて理解でき、私たちを成長させてくれます。この時期に、私たちの心に深く刻まれ、私たちを動かした力は、すべてのYMIボランティアが目指すものです。それは、この困難な時期における恵まれない人々への愛であり、連帯感であり、支援であり、差し伸べられた友愛の手であり、慰めの言葉です。

このように、ブラジル区のワイズメンは、多くの困難に立ち向かい、困っている地域や路上生活者と向き合い、また、パートナーである YMCA の社会的プロジェクトを支援しました。

ロックダウン（都市封鎖）で、多くの企業が倒産し、従業員は、解雇され、多くの家族は、支えを失う状態におかれてしまいました。一部の人々は、家を失い、路上で生活するホームレスになったり、食べ物にも事欠く状態になったりする人もいました。

このような状況を踏まえて、ブラジル区のいくつかのクラブは、飢餓、寒さ、絶望との戦いの先頭に立っています。ボランティアや企業の支援を受けて、毎日たくさんの弁当と水を、助けを必要としている



路上でホームレスや飢えた市民のために食事を作り、配る活動をするブラジル区のメンバー

人々に配り始めました。イタケラ、ヴィラマリア、ヴィラレおよびパのワイズメンズクラブの素晴らしい活動を紹介します。これらの地域では、多くの低所得層の家族に食料、衣類、毛布、マスクなどを提供し続けてきており、また、ミルクや卵など基礎的な食料が入ったバスケットを提供して、YMCAのソーシャルプロジェクトの子どもたちを、支援し続けてきています。

私たちは、統一国際プロジェクト「Heal the World（世界を癒そう）」からの資金援助を提供してくれたキム・サンチェ国際会長に感謝したいと思います。パンデミックで困っている人々たちを助ける上で大変助かりました。

セシリア・マリア・トスタ・エイド、
サンパウロ・ラパワイズメンズクラブ
区LTOD事業主任- ブラジル区

ブルンジ:国際支援の現場



最近の洪水の後、ガトゥンバのシングルマザーのニーズに応じて、新しいブジュンブラYサービスクラブは、119家族、約400人分の食料を提供しました。クラブのメンバーは、最初の大きなプロジェクトとして、粥を作り、パンと一緒に配りました。資金は、オタワYサービスクラブと「世界を癒そう」国際本部からの助成金の一部で賄われました。

デビッド・ホール:オタワクラブ、カナダ

インド:マドラス部 YMI 100 周年の祝賀行事始まる

南インド区マドラス部では、今年度に入り8月からは、100周年を祝う各種の行事が始まりました。

祝賀会は、マドラス部評議会とPST研修事業が先導し、ポール・ウィリアム・アレキサンダー遺産事業に自ら名誉会員として貢献した3人のワイズの認証と、それを讃えるインド伝統のショールの贈呈で始まりました。続いて、100本のロウソクが灯されたケーキに入刀する儀式が行われました。

各クラブでは、100周年に因んだ100という数字を活用した各種行事が行われました。以下のとおりです。

- ・パダパイクラブとHIETユースクラブは、100本の苗木の植樹、100回分のワクチン接種、100個の救援箱、100食の養護施設のための無料の朝食、昼食、夕食の提供
- ・ミラポールクラブは、100人分の透析の無料支援、100本の苗木提供
- ・チェンナイノースクラブは、100枚の車に貼る100周年記念の丸いステッカー、100個の野球帽、100回分のワクチン接種の提供
- ・マドラスレジェンドクラブは、100個の学童用キットと100食の食事券の提供
- ・チェンナイミレニアムクラブは、ワイズの遺産基金に100米ドルの寄付
- ・エスプラナダクラブは、恵まれない子供たちへの100個の食料品パックと衣料品セットの提供
- ・カラパッカムクラブは、貧しい人々への100個のランチパックの提供
- ・KCG大学ユースクラブは、100本の苗木の提供
- ・アナンナガールクラブは、100人の孤児の学童に給食の提供
- ・アナンナガールウエストクラブは、支援を約束した学校への100個の食料品パックを配布
- ・コダムバックムクラブは、恵まれない子供たちへの100冊のノートと100本の鉛筆の寄贈

マドラス部書記
次期部長C.R.デヴェンドラ



次期地域会長アナンド・ジェイコブ・ヴァルギースその他でケーキにナイフを入れる



マドラス部の各クラブが実施する事業を表示する各クラブのバナーを示すリーダーたち

不正の壁を少しずつ打ち崩す

平和の構築という言葉は、近年流行り言葉となっ
ています。NGOは、いずれも3年間のプロジェクトに“平和の構築”
という要素が必ず含まれるように努めており、“先進国”の
大学は、海外からの留学生のために最新の理論を学び、
最新の平和モデルを実践する機会を与える魅力的な奨
学金付き学位を授与しています。この取り組みが実を結ぶ
か否かは時がたてば分るでしょう。

しかしながら、平和と正義に関わる問題に数年関わ
ってきた経験からすると、「平和構築」とい
う言葉には益々違和感を持つようになりました。平和とは、実のところ創造主(神)に
よって私たちに与えられた賜物であるにも
関わらず、平和を構築する事が私たちの
任務であるかのような印象を与えます。全
ての人が、平和という賜物を思う存分享
受するのを妨げる不正の壁が築かれる
時、暴力が起こるのです。よりの確な表現
を用いると、「不正を正しく変容させる」も
しくは不正の壁を少しずつ打ち崩して、や
がてそれが崩壊して私たちの住む共同
体に遍く平和が行き渡るようにする事が
肝要なのです。それは、単に言葉の意味
解釈の問題であると主張する人がいるか
もしれませんが、私たちが使う言葉は、各地、国、国際レ
ベルの紛争への取り組み方に直接的かつ極めて大きな影響
を与えると主張したいと思います。

観光業がそのよい例です。異なる国籍、民族、言語、信
仰、文化を持つ人々の相互訪問は、グローバル化の進ん
だ私たちの世界において加速されている事実です。そのよ
うな相互訪問は、極めて有益であって、交流を行い、情報
を共有し、違いについて学び、“他者”についての意識を高
める機会を提供してくれます。しかし、「平和構築」を目標と
する観光業は、十分な成果をもたらすことができないかも
しれません。アメリカ人が、ベトナムを訪問し、ベトナムの人々
がどれほど友好的であるかを知り、少しばかり触れ合い、
交流をして「私たちは、もう皆、良い友達だ」と結論を出す
だけでは十分ではないのです。同様にイスラエルの人々が、
パレスチナの人々を訪れて一杯のアラビヤコーヒーを味
わい、少しばかり談笑し、さらにオリーブの収穫を手伝っ
たとしてもイスラエルとパレスチナの間に内在する不正が明

らかにされ、問題視され、それに立ち向
かったことにはならないのです。

「不正を正しく変容させる」ことに重
点を置いた観光業は、その優先事項と
して、隠れた不正であれ、公然たる不
正であれ、それを暴露することが必要な
のです。アジアやアフリカを訪れるアメリカ人は、アメリカの経
済的軍事的政策がそれらの地域の市民の健康と経済的



全ての人が、平和という賜物を思う存分享受するのを妨げる不正の壁が築かれる時、暴力が起こるのです。よりの確な表現を用いると、「不正を正しく変容させる」もしくは不正の壁を少しずつ打ち崩して、やがてそれが崩壊して私たちの住む共同体に遍く平和が行き渡るようにする事が肝要なのです。

健全性を損なっている事をもっと深く認識し
なくてはなりません。フィリピン・ミンダナオ島や
レバノンのイスラム社会を訪れるキリスト教
徒は、なぜキリスト教がしばしば誤解され、
恐れられ、毛嫌いさえされているかを理解す
る必要があります。それらの学びの経験は、
もし真剣に取り組むなら“他者”に対する
共感に導いてくれる可能性があるのです。
そしてその共感の気持ちが人々を行動に駆
り立てるために必要なのです。—自国に戻
り、自分たちの地域社会に根づいている経
済的、政治的、社会的、軍事的不正の壁を
少しずつ打ち崩す必要があるのです。

最近ジンバブエを訪れて、この国の人々
が生き延びるために必死になって奮闘して
いるのを目の当たりにして衝撃を受けました。国民が、経験
している経済的貧困の理由は、枚挙にいとまがありません
が、ほんの数例を挙げると、国のリーダーシップ不足や良い
経済政策の欠如、意思決定に国民が参加できないなどの
理由があります。しかし、合衆国から輸入される食糧が、し
ばしば現地で栽培されている農産物よりも安い価格で、市
場で売られている事にも私は、当惑しました。裕福なアメリ
カの会社組織の農業従事者への助成金が、地元農家が
最終的に土地を立ち退き、都市部で仕事探しをするほど
まで、地元の食料品価格を引き下げているのです。それによ
ってジンバブエの多くの国民が、彼らの伝統的な農法によ
って人並みの生活を送る能力を奪われているのです。彼ら
は、もはや家族を養うことができず、絶望感と落胆が身近
に迫っているのです。

アメリカの小規模農家がジンバブエの貧困に喘ぐ農家
を訪れる事は、もしそれらの訪問が、両者が現在の地球規
模の経済プロセスの現状についてもっと学び、不正の壁を
少しずつ打ち崩す互恵的な戦略を模索する機会となるなら
ば、不正を正しく変容させる一つの方法になりえるでしょ
う。たとえ、この両国の農家が身体的にも言葉によっても
お互いを虐待していなくても、この経済システムの不正が手

* マックス・エディガーは、カンボジアの「平和の学校」の運営責任者
です。彼は長年のブロガーであり、この記事は、以前のブログに掲載
された記事の一つで <http://calebandshalev.wordpress.com/>
から転載されたものです。

エレナ・セルゲエブナ・シルベストロヴァ・シルタネンを偲ぶ(1974-2021)



元 STEP 国際事業主任、ジニー・グルヤスからカナダ・オンタリオ州スーセントマリーの新聞に掲載された訃報が届きました。この訃報記事には、1996 年にスーセントマリーで Y サービスクラブの家庭で過ごした 8 週間で人生が一変した、注目すべき若き女性の遺産と私心の無い性格について書かれています。エレナ・

シルベストロヴァは、ロシア、サンクトペテルブルクの薬学部 3 年生の時、ホストファミリーから招待状が届きました。彼女は、カナダに到着し、1996 年にニューブランズウィック州フレデリクトンで開催された国際大会の参加に間に合いました。その後 1998 年、エレナは、ホストファミリーの友人であるスーセントマリーの歯科医師のドン・シルタネンと結婚しました。スーに戻って来て、薬学教育を終え、地元の薬局でキャリアを積み、その後スー・エリア病院で 15 年、カナダに来てから 25 年が経ちました。エレナは、手に負えない珍しいタイプの肺ガンと診断された時、人生の最後の 2 年間を他のガン患者のメンターとなり、同じ様な治療を受けている

患者のためのガイド書を書きました。これにより、数えきれない程の患者が、診断後のより良い生活を送れるようになるでしょう。国際がん支援ネットワーク(ICAN)は、彼女の功績を称え、エレナ・シルタネン薬学支援ネットワークを設立しています。ご主人のドン、子供のマイケルとパウリナ、母親のリディア、兄のパベルそしてカナダとロシアの大家族にお悔やみを申し上げます。また、同僚や友人達からも多くの追悼の意が寄せられており、温かく見守られています。

マリリン・ハミルトン (カナダ・オンタリオ州オタワ)
カナダ・YEEP 地域事業主任 1992-1997

ボランティア 無比の人々

ワイズメンズクラブ国際協会の大きな強みの一つは、共通の利益のためにボランティア活動を行う能力と意欲です。彼らは、ボランティア活動を YMCA や地域社会で幸せを感じながら行っています。私たちは、西村隆夫(元国際書記長)と利根川恵子(国際 IBC 事業主任)のふたりが東京オリンピックのボランティアに参加したことを誇りに思います。ニシさん、恵子さん、2020 東京オリンピックで素晴らしいボランティア活動を行ったこと、おめでとうございます。



前ページからの続き

つかずのまま放置され、苦しむ者がいる限り、平和は、実現できないのです。平和が両者の間に惜しみなく行き渡り、人間としての威厳を醸成できるように、この不正の壁は、打ち砕かれなくてはなりません。

不正を正しく変容させる観光業を企画する事は、容易ではありません。多分、大多数の観光客は、数日をビーチで過ごし、格安のショッピングを楽しみ、痒い所に手が届くような贅沢なもてなしを好んで、地球規模の不正の実態について学ぶ事にはほとんど興味を示さないでしょう。しかし、学ぶ事を望み、地球規模の正義のために行動しようとする一握りの観光客にとっては、互いに学びあう経験を持ち、不正を正しく変容させる行動のために人々を連帯させるツアーを企画する努力をする事は、真に価値があります。

平和は、無から築き上げるものではありません。平和は、正に、思う存分享受するために私たちに与えられ賜物なのです。平和を存分に享受するのを妨げている不正の壁をこの世界から駆逐する仕事は、手つかずのままです。観光業と旅行の適切なモデルを通して、その責務に取り組もうではありませんか。



クラブの指導的立場にあるメンバーに、実施した活動に関する記事を 1 枚以上の高解像度の写真と適切な短い説明文を付けて送られることをお勧めします。記事は、150 語(英語)以内でお願いします。読者の皆さんもグローバルな私たちの運動に関する関心事について、ご意見や原稿をお寄せ下さい。記事と写真は www.ysmen.org/ymiworlD にお送り下さい。次号掲載記事の提出締切日:2021 年 11 月 30 日

1974-1986 年の国際会長

49. ハリー・カミングズ (1926-1998)

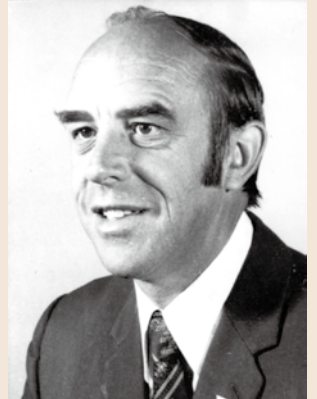


1974-1975の国際会長
ホームクラブ: セントポール
(米国・ミネソタ州)
保険代理店を営んでいた。

52. ブルース・E・プライス

1977-1978の国際会長

ホームクラブ: バララット (オーストラリア・ヴィクトリア州)
依然としてバララットで積極的にクラブの活動を行っている。
生存している最も古い国際会長である。



50. 鈴木謙介 (1912-2005)

1975-1976の国際会長

ホームクラブ: 大阪

ティーンエイジャーのころから大阪YMCAと深く関わっていた。大丸百貨店の重役を務めた。アジア初の国際会長であった。

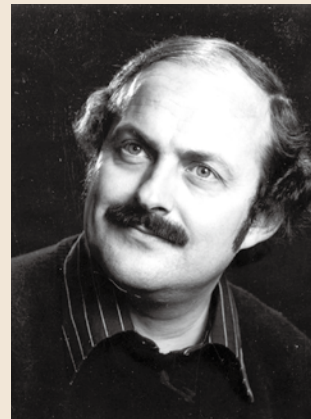


53. ゴットフレッド・ニッセン

1978-1979の国際会長

ホームクラブ: バイレ (デンマーク)

デンマークから二人目の国際会長



51. ジェームズ・J・ミューラー (-2014)

1976-1977の国際会長

ホームクラブ: ガーデナ (米国・カリフォルニア州)



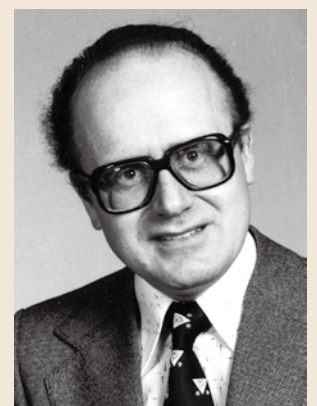
役員就任式辞を暗記していて、誇りを持って式で引用した。様々な記録を集め、「知識の本」を編纂した。ウェブサイトでも見ることのできる多くの歴史記録を執筆した。

54. クリスチャン・バッハ・イヴァーセン

1979-1980の国際会長

ホームクラブ: オーフス (デンマーク)

1978年のオーストラリア・メルボルンでの国際大会でのスピーチで世界のクラブ数を1,000にするという願いを表明したが、1980年にデンマーク・ビエルトが1,000番目のクラブとしてチャーターされて実現した。



1974-1986 年の国際会長

55.R・F・(トッド)・ゲンケルマンJr(1923-2014)



1980-1981の国際会長
ホームクラブ:ファーゴ
(米国・ノースダコタ州)
第二次大戦から戻り、家族所有の不動産会社を運営

58.クレア・S・グラハム

1983-1984の国際会長
ホームクラブ:フラートン
(米国・カリフォルニア州)
彼が最後に参加したイベントは、
2017年のネバダ州・ラスベガスでの
米国地域大会であった。



56.ヨサップ・(ジョセフ)・オーム

1981-1982の国際会長
ホームクラブ:ソウル(韓国)
彼の任期中にデンマーク、ノルウェー、韓国、インドでの伸びによって会員数は、24,600となった。



59.竹内敏朗(1925-2017)



1984-1985の国際会長
ホームクラブ:熱海
様々なクラブの働きを知るために、
アメリカの多くのクラブを訪問した。

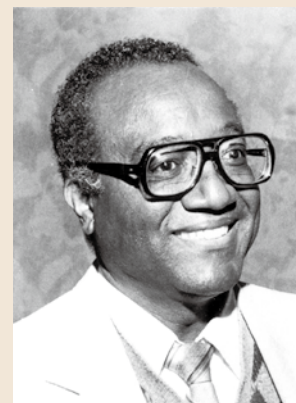
57.マックス・ラーセン



1982-1983の国際会長
ホームクラブ:サンタモニカ
(米国・カリフォルニア州)
ロスアンゼルス地域の法律家

60.ジョセフ・アンダーソン博士

1985-1986の国際会長
ホームクラブ:ベークズフィールド
(米国・カリフォルニア州)
YMIの75周年記念誌の編集者としても知られている。





Internships 4 Global Outreach #IGowithYMI



世界に手を伸ばすためのインターン制度

IGo は、YMCA とワイズメンズクラブが、18 歳から 29 歳までの YMI の一員または YMCA のスタッフに職業体験の場を提供するプログラムです。組織内部でのリソースの提供によって、IGo は、様々な、外国での生活と仕事の短期間の機会を提供し、以下を促進します。

4 KEY ACTIONS



ENGAGE 関わる

世界との関わりを築く

異なる文化と外国語を経験する。視野を広げる。展望を持つ。知識を持った活発な地球市民となる。

CONNECT 繋がる

職業的、社会的なネットワークを築く

新しい人と出会い、一生続く友情を深める。国際交流を分かち合う。個人的、職業上のネットワークを補完する。異なる文化と外国語を経験する。視野を広げる。展望を持つ。知識を持った活発な地球市民となる。

BUILD 築く

経歴を築く

履歴書を豊かなものにするために、仕事と生活スキルを得る。より魅力的な採用応募者になる。雇用者となる人々、世界に対して訴えることのできる財産を築く。

EMPOWER 強める

スキルと自信を築く

自信を持つ。自分の力を知る。リーダーになる。行動を起こす。より良い世界のために働く。

Scan to learn more



Y'S MEN INTERNATIONAL: www.ysmen.org/igo - ihq@ysmen.org